

限界集落における独居高齢者支援の実現に向けて多世代が互いに支え合う地域へ（任意団体）

【助成事業の概要】

限界集落の独居高齢者、およびそれに準ずる世帯の安心・安全で健やかな暮らしを支援するため、見守り等の人的支援に加え、高齢者自らがサロンで講師として若い世代と交流してもらえるような取り組みを行うことで、精神的孤立、立地的孤立感の軽減のみならず地域で互いに支え合う支援のネットワークを構築した事業です。

【助成金の使途】

助成金は、独居高齢者の訪問や、交流会に参加してもらう際の移送レンタカーの借料のほか、助成事業専用のアルバイトスタッフへの賃金等に使われています。

【助成事業の成果】

過疎化の進む集落での見守り活動に加え、多世代間の交流会を実施したことにより、ヤングオールド世代の事業への参加促進が進み、各世代が互いに支え合う支援のネットワークの構築に結びつきました。



サロンを通じて、高齢者・障害者などが気軽に集う居場所支援（NPO）

【助成事業の概要】

独り暮らしの高齢者や障がい者並びにその家族が気軽に集う場のない地域の現状に対して、人とのつながりや生きがいづくりを通じて日中活動の質の向上と社会からの孤立防止を目的に、居場所を提供し、見守りと自立の支援を実施した事業です。

【助成金の使途】

助成金は、居場所用スペースの家賃やテーブル等の備品購入費のほか、助成事業専用スタッフへのアルバイト賃金等に使われています。

【助成事業の成果】

高齢者事業・障害者事業を扱う団体が連携を組み、居場所サロンを2ヶ所で実施し、それぞれの得意分野を生かし、互いに情報交換をしながら、地域の支援を行うことができました。



病院からの地域移行・地域定着への仕組みを構築する精神障がい者等のための実践的モデル事業

（社会福祉法人）

【助成事業の概要】

精神障がい等障害のある方が病院から地域へ住む場所を移行するだけでなく、地域に存在して定着し、生活することを目的に、病院から地域への連携の仕組みづくり（会議）、地域の人と関わる段階的居場所づくり（当事者サロン→地域サロン→地域行事）、および地域の理解促進からピアサポートを中心とした相互支援のモデル事業を実施しました。

【助成金の使途】

助成金は、研修・講座・シンポジウムの講師謝金、講師・事務局旅費、チラシ作成の印刷製本費、チラシ発送の郵送料、サロンの消耗品費等に使われています。

【助成事業の成果】

病院関係者と地域の福祉関係者の関係が構築できつつあり、お互いに連絡を密にとるようになりました。また、事業がきっかけとなり、地域の人との声掛けなど交流ができるようになり、また、当事者サロンが当事者が主体となって行われるようになりました。



地域で重度認知症の理解を深め、地域支援や新たなネットワークの構築を後押し（NPO）

【助成事業の概要】

認知症の人が住み慣れた場所、なじみの人に見守られて最期まで暮らし続けるために、認知症のタイプおよび段階に応じたケアを提供するためのガイドラインを作成し、それらを用いてセミナーを開催することで地域支援および連携のあり方を提唱した事業です。

【助成金の使途】

助成金は認知症ケアの現状把握のための調査・集計業務委託費や、ガイドラインとなるDVDの作成委託費のほか、セミナーでの講師への謝金、旅費等に使われています。

【助成事業の成果】

調査を通じて、実態や問題点を明確にし、ガイドラインに落とし込み、それらを資料としてセミナーを開催したことで、医療と家族と介護者がどのようにかわりながら、認知症当事者を支えていくのかを考えるきっかけとなりました。

